

# 安佐南区役所芸術展示 作品解説

【本作品の展示期間：平成29年3月6日から約1年間】

## 工芸展示作品「大鬼蓮」 作者：吉田 真菜 (YOSHIDA Mana)

2014年 <材質>漆、麻布、和紙、栃、金粉、銀粉、水色金粉



オオオニバスという睡蓮の花があります。花の直径は40cmにもなり、大きくやぼったい姿をしています。花弁の中は神秘的な表情を浮かべます。1日目は少女の花、めしべが甘い蜜を出して虫を誘い、2日目は男性の花、おしべがめしべを閉じ込め花粉を付け、3日目は母体の花、受粉して解放されたようになります。その1日目の少女の花の様子を蒔絵で表現しました。

## 工芸展示作品「mokume brooch」 作者：平岡 勇樹 (HIRAOKA Yuki)

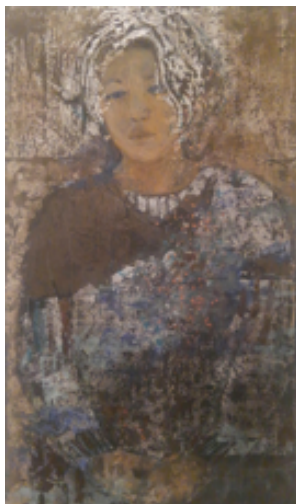
2015年 <材質>赤銅、四分一、silver、桜、ステンレス



木と金属を組み合わせて作ったパーツを宝石に見立てブローチの台座に爪留めという方法でセッティングしてあります。木は桜の木を使用しており、それと合わせている金属部分は、日本の伝統技法「杢目金（もくめがね）」という技法で作られています。銀と赤銅（銅と金の合金）、四分一（銅と銀の合金）の板を数枚重ね合わせて溶着し、金槌で板状に打ち延べます。打ち延べられた板面を部分的に掘り削っていく事で、銀と赤銅、四分一の金属の段層が模様となって現れます。

## 日本画展示作品「凧」 作者：南保 茜 (NANBO Akane)

2016年 <材質>M6号、石正紙、岩絵具、墨、銀箔、黒箔、銅箔



静かな海の上を進む。  
窓からは港が見える。  
そのうち風が吹くだろう。  
そして、いずれまた穏やかになる。  
この作品は、モデルの人に対するイメージとその人の日常を重ねた情景を表現しています。  
筆を進めるうちに、異なる景色を見て育ってきた私の記憶の中にある海とも繋がっていき、とても懐かしい気持ちになりました。

## 油絵展示作品「月下美人」 作者：飴本 崇久 (AMEMOTO Takahisa)

2017 年 <材質>M6 号、油彩、白亜地、麻布、パネル



植物の持つ静かな動きや、品種改良を通じて人間の美意識が植物に与える影響に興味があり制作をしています。幾度となく分岐を繰り返し多核的に展開するさまを観察していると、人の営みにも重ね合わせられ共感を覚えます。今回描いた月下美人は中南米に原生するサボテンの一種ですが、日本にも導入されているためなじみのある植物ではないでしょうか。灌木によじ登るツタのように成長するためか、枝先は中空を探るように、コウモリを招くといわれる重たい花は夜に向けてちょうど開かれようとしているところで、湿った芳香をこぼしています。

## 彫刻展示作品「家」 作者：坂本 萌子 (SAKAMOTO Moeko)

2015 年 <材質>赤トラバージン



私は主に人体彫刻の研究をしています。これまでスケッチしてきた、様々なモデルが取る様々なポーズを元に、身体の動きを彫刻で表現したいと思いこの作品をつくりました。また、筋肉をおもわせる赤い石に身体の動きを刻みつけていくことが、家に人が住まい、そこに個性が生まれることのように思え、「家」というタイトルとなりました。

## 彫刻展示作品「ウインドウ」 作者：土井 満治 (DOI Mitsuharu)

2013 年 <材質>砂岩



この作品は、砂岩のかたまりを薄くL字に削りだし、そこに家や人工物や山を造形しています。量と厚みを無くしつつもかろうじて自立する現実の石と、そこに刻まれた小さな架空の世界の相互作用によって、目の前にありながら手を伸ばしても届かない距離感と物語として紡がれる時間的広がりを持った独自の風景の創出を目指しています。